

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション喜多町
所在地	(〒 940 - 2121) 新潟県長岡市喜多町 2900 番地		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
 住み慣れた地域で、自分らしく暮らせるよう支援していく。
 情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 9 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	(13) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】 (コロナ感染拡大防止の為 書面開催となり、照会とする。)

実施日	西暦 2022 年 11 月 16 日	出席人数 (合計)	(14) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	■自事業所職員 (2 人) ■市町村職員 (1 人) ■地域包括支援センター職員 (1 人) ■地域住民の代表者 (2 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (0 人) ■利用者の家族 (1 人) ■知見を有する者 (3 人) ■その他 (4 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>研修・ミーティングを通して理念・運営方針・業務目標を明確にし、理解した上で業務を遂行し、事業所全体のケアの質の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の個別研修の成果を情報共有し、技術向上を図る。 ・新型コロナウイルス感染症（新たな感染症）対策のシミュレーションを行い、状況に応じた対応ができるようにする。 ・事業所の活動が分かりやすい資料を作り、推進委員の皆様により深く事業所の活動内容を知って頂く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の研修目標に沿って学んだ。 ・濃厚接触者の定義や感染症発生時の考え方や業務継続方法など研修を行った。 ・推進会議で意見交換の時間を有効にできるよう資料を先に送付した 	<p>個別研修計画の評価し目標達成に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を活かし感染防止対策を継続。BCP（業務継続計画）の見直しをした。 ・コロナ感染により書面開催となり会議での意見交換ができなかった。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・体調変化に対し、早期対応、援助（計画書）の見直しを行い、状態悪化を防ぐ。 ・その人らしい暮らしができる様に、職員間で共通認識を持ち、自立に向けた支援に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットで共有 ・サービスの見直しをケアマネに提案し新たに計画書を作成した。 ・カンファレンスで話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットで危険防止意識や気づきの意識を持つことができた。 ・カンファレンスで援助内容を見直すことができた。 ・その人の思いやできる事に着目し内容を記入して可視化し共有した。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所ミーティングを少人数のグループで行うことで意見を出しやすくし、まとめ・報告する力をつける。 ・ICTの活用方法を工夫し、多職種が必要とする情報を共有することで、サービスの質の向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングで利用者のカンファレンスを実施。その人の思いや意向、課題、援助内容等の意見を出し合い、援助内容を統一し実施その後評価した。 ・タブレット委員会で活用方法の質向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その人の思いに寄り添い考える事ができた。 ・表に記入し可視化することで意見を出しやすくし共有できた。 ・少人数グループで実施できず意見が偏った。 ・タブレットの記入方法（申し送りの要約、モニタリング入力、変化の記入）を見

				直し情報共有が効果的にできるようにした。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28~32)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方へ定期随時の理解を深めてもらう為に広報誌を発行する。 ・コロナ禍での推進会議の開催方法、地域との関り方を推進委員の皆様の意見を頂きながら進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に定期随時の内容の広報誌を回覧した。 ・コロナ禍のため書面開催もあり、照会でご意見を頂いた。 ・地域の活動(防災講習、クリーン活動)に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回覧により定期随時の情報発信を行うことができ、地域とのつながりの一つになった。継続が必要。 ・今後の回覧には地域の方が求める情報内容を見直してみる。 ・推進会議で顔の見える関係ができるようにする
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33~34)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調変化時、緊急時、災害時等において、的確に判断できるように、研修、ミーティング等通じて技術向上を図り実践につなげていく。 ・ご利用者の声をお聞きし、自分らしく暮らせているか計画書に沿ってアセスメントを行い、安心して在宅生活が続けられるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や事業所ミーティングで確認 ・ご利用者の想いを聞き取り、モニタリングで確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策、感染発生時の対応や業務継続方法を確認した。 ・在宅生活継続のため想いに寄り添いながら支援をしている。在宅生活継続できず入院や入所されるケースも多くあった。 ・利用者・ご家族へ満足調査を実施予定 	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
<p>1. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の目標に沿ってミーティング・研修に参加し、技術の向上に努めている。目標達成に至らない職員は次年度への課題とする。 ・外部研修はオンラインで積極的に参加した。書面を通して内容を共有しているが、伝達と理解が不十分である。来年度も積極的に参加して内容伝達と理解ができるように取り組む。 ・感染防止対策を継続している。事業所内感染や他サービス利用不可による追加在宅訪問の調整などでヘルパーの必要性は大きいと感じた。 ・感染発生時のシミュレーション研修を実施した。BCP（業務継続計画）の見直しをした。今後活かしていきたい。 ・コロナ感染により書面開催となり会議での意見交換ができなかった。分かりやすく資料作成し照会にて評価ご意見を頂くことができた。今後は資料を先に送り推進会議で意見交換が有効にできるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・運営方針・業務目標を明確にし、理解した上で業務を遂行し、事業所全体のケアの質向上を目指す。 ・個別研修の目標達成のためミーティングや研修等（外部研修含め）に参加し、成果などを情報共有し技術向上を図る。 ・BCP（業務継続計画）の見直しと対策と対応方法の訓練を行い、状況に応じた対応が出来るようにする。 ・事業所の活動が分かりやすい資料を作り、推進委員の皆様により深く事業所の活動内容を知っていただく。 ・推進会議で意見交換の時間が有効にできるように見直しを図る。
<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットで危険防止や気づきの意識を持つことができた。内容共有して対策を検討し大きな事故防止に繋がった。業務が多忙のため件数が少ない時もあった。予測できる危険やより幅広いヒヤリハットが挙がるように定着していきたい。 ・定期的なミーティングでカンファレンスを実施し利用者や家族の想いを考え課題分析し援助内容を見直す事が出来た。 ・利用者や家族の想いや出来る事に着目し内容を可視することで共有でき統一した援助に繋がった。 ・感染防止のためカンファレンスが実施できず意見交換や話し合いや評価が出来ないことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントを考え危険防止に取り組む。 ・体調や状況変化を早期把握し、早期対応、援助（計画書）の見直しを行い、状態悪化を防ぐ ・その人らしい暮らしが出来るように、その人の想いを知り、出来ることに着目し、職員間で共通認識を持ち、自立に向けた支援に取り組む。

	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス表で可視化することで共通認識し意見を出しやすくし共有できた。 ・感染防止のため十分な意見交換が出来ないことが多く意見が偏った。 ・タブレットの記入方法を見直し多職種との情報共有が効果的に出来るようにした。多職種が必要とする情報を確認して活用しやすいように工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングやカンファレンスで意見が出やすく共有できるように工夫、ケアの質向上につなげる。 ・ICTを活用して多職種と早期に情報共有ができ、より良いケアに繋がるようにする。
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域へ定期的に回覧を実施し定期随時の情報発信を行うことができた。地域の方が求める情報内容を見直してみる。 ・推進会議の進め方を見直し、会議前に資料を送付し確認していただき会議当日の意見交換が進めやすくしたが、感染防止のため書面開催となり照会によるご意見を多数頂いた。来年度は顔の見える関係が出来るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への回覧を継続し、定期随時の情報と、地域の方がほしい情報を発信する。 ・推進会議で有効に意見交換ができるように資料配布を先に見てもらい進め方を工夫する。 ・地域へ参加し、顔の見える話しやすい関係作りをする。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策、感染発生時の対応や業務継続計画を確認した。 ・災害時や緊急時に利用者安否確認や対応方法等をまとめ見やすく可視化した。毎月更新しすぐに確認できるようにした。 ・利用者家族の想いに寄り添いながら在宅生活継続のため支援を続けた。入所や入院など多くあり継続できないケースもある。モニタリングや計画見直しの必要をケアマネジャーと情報共有し在宅生活継続の支援をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調変化時、緊急時、災害時等において、的確に判断できるように、研修、ミーティング等通じて技術向上を図り実践につなげていく。 ・ご利用者の声をお聞きし、自分らしく暮らせているか計画書に沿ってアセスメントを行い、安心して在宅生活が継続できるよう支援する。 	